

滝川金山沢／曲沢下降

平成24年6月23、24日

L白土悟、久美子

台風の過ぎ去った22日深夜、仮眠場所の「出会いの丘」へ向かう。道中、通り過ぎてきた川はどことも増水している様子で、不安な気持ちで到着すると、車が停まっており、何人かで入山祝いをしているようだ。山屋かなあと思いながら、少し離れたところで仮眠。

翌朝、話を聞くと新潟から来た3人パーティーで、水晶谷へ行くという。水、冷たそうだね〜と軽く挨拶をし、一足先に私たちは出発。

いろいろネットで調べ、天狗岩トンネルを過ぎ、洞門の手前フェンスの脇から本流に向かって急斜面を下りる。踏み跡があるはずだったが、よく探さずに適当に滑りながら100mほど下ると、トロッコの軌道跡があった。ところどころ落石があったりするが、幅2mくらいの良い道だ。看板が目印の踏み跡を、トラロープを頼りに下ると豆焼沢出合についた。水量が多く、とても渡渉できる状態ではないので引き返すことに。下流に吊橋があるようなので、トロッコ道まで上がり、下流に向かってしばらく歩くと、沢へ下る明瞭な踏み跡があった。看板が二つ立っているのだからわかりやすい。小さな滝の前を通過して吊橋まで下り、吊橋を渡ったあとは滝川右岸道と呼ばれる仕事道を進んだ。真新しい赤テがあり、とても明瞭でほぼ平らなよい道だ。途中で支尾根(ここも赤テあり)に入り、曲沢を経て金山沢まではトラバースして最後は懸垂にて金山沢の出合から少し進んだところへ下りた。金山沢も増水していて、幅の狭まった滝で

は水があふれ落ちていた。10m滝は増水してヒョングリになっており、水流右際を登るが、怖くて近寄れないので水流から離れた右斜面を登る。残置のトラロープはあるが、万が一ずり落ちたら濡れるのは必須、釜から這い上がるのに、滝に近寄らねばならないので、爆音をあげて落ちている滝を見るだけで足がすくんでしまう。トラロープ+夫に上からロープを垂らしてもらい、やっとのことで登った。今回一番怖かった。



【ヒョングリになった10m】

小さな釜を胸まで浸かって越え、いくつか小滝を過ぎると右岸に釣小屋跡があった。瓶の破片やワイヤーなどが随所に落ちていてお世辞にもきれいとは言えない。

逆さくの字5mは右から巻く。滑りやすくてちょっと悪いので、補助ロープを出した。その後は金山沢のハイライト、きれいなナメが続く。新緑の木々にコケが美しい。相変わらずの増水で水量は多いが、その分楽しめる。



ナメが終わり、左にまた釣小屋跡を過ぎると左側が広がってきた。水流沿いに平らなところがあったので本日の寝床とする。薪もそこら中にたくさん転がっており、とても快適。焚火を起こしている間に小さな虫がやってきたが、放っておいたらいつの間にか二人ともあちこちやられてしまった。これがまた痒くて辛い、小さいからと侮ってはいけない。

翌日、テン場をあとにするとじきに二俣となり、左へ入ると一気に水量が減る。途中で左のガレを詰めて尾根のコルに出るはずが、GPSが入らず、地形図を見てもどの枝沢なのかわからなくてコルより右のピークへ出た。沢を行きすぎてしまったようだ。適当なところから反対側の曲沢へ向かって下降する。少しで水が出て、枝沢と合流していくうちに結構な水量になってきた。曲沢自体は滝が無く、あっても簡単に巻けるのでどんどん下る。下り始めて4つ目の出合には仕事用と思われる新しい赤テがたくさんつけられていた。そこから少しで仕事道が右岸にあり、たどっていくと沢から少しあがったところに小屋跡があった。日当たりがよくて気持ちのよいところだ。ガラスの破片に注意して沢の道具を外し、運動靴に履き替えてそのまま仕事道を下る。赤テがずっと付いていて、このあたりは今も

林業が盛んのようにだ。植林や原生林の中を吊橋まで戻った。



吊橋を渡りきり、トロッコ道を右に少し進むと枝沢の脇に国道までの登山道を示す赤テがあった。とても明瞭な道を登っていくと大きなコンクリートの構築物があり、そばに東大の敷地であることを示す看板があった。すぐに国道140号に出る。コンクリートは砂利敷スペースの土台であった。



【ここからトロッコ道へ下れる】

今回、水量が多くて滝川本流は行けず、遡行もちょっと大変だったけど、鬱蒼と苔むしてきれいな奥秩父の沢を堪能することができた。

滝川金山沢
 曲沢下降
 H24.6.23~24

